

1 民生委員児童委員の主な活動内容

(1) 会議・研修

- ①定例会 毎月1回、研修会等の案内や相談事例の対応内容確認等
- ②研修会 年間をとおり、様々な研修会に参加
 - ・初任者研修
 - ・実務者研修
 - ・講演会
 - ・活動推進講座
 - ・高齢者福祉研修
 - ・母子父子児童福祉研修
 - ・保護・心身障がい者生活福祉資金研修 等々



(2) 訪問・相談

- ①見守り訪問 ひとり暮らしの高齢者世帯等を定期的に訪問
- ②相談対応 訪問活動等の中で様々な福祉に関する相談を聞く

	令和5年度	1人当たり
①見守り訪問件数	58,036件	16件／月
②相談対応件数	5,430件	2件／月



(3) 独自事業

①ふれあいコンサート

民生委員児童委員活動のPR事業として平成13年から開催。同コンサートを通じて地域住民への活動に対する理解促進と関係づくりに取り組む

	令和元年度	令和2～5年度	令和6年度
参加者数	約660人	コロナにより休止	約830人

②お便り「みんな」の配布

令和3年7月から毎月発行。コロナ禍で定期訪問もできず、民生委員活動もままならない状況となったことから、当初は新人民生委員の活動支援を目的に開始。現在では独居高齢者への各種事業周知などにも活用され、「毎月楽しみにしている」等の声も寄せられている。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
配布枚数	55,491枚	68,430枚	74,717枚

2 民生委員児童委員の協力事業

(1) 高齢者世帯調査 (市) 一人暮らし高齢者の世帯状況、健康状態、緊急連絡先等の聞き取り調査を毎年9月から10月にかけて行う。

- ・65～69歳 郵送調査 (※)
- ・70歳以上 民生委員児童委員による聞き取り調査

(※) 郵送調査は、調査件数の増加等に対応することを目的に令和2年度から実施しています。



		令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者数 (注)		15,229世帯	15,592世帯	15,859世帯
調査内訳	郵送	1,716世帯	2,326世帯	2,941世帯
	民生委員	13,513世帯	13,266世帯	12,918世帯

(注) 対象者数は、65歳以上の単身高齢者（住民票ベース）、要援護世帯だが、住民票上では単身であっても、実際は家族と同居しているなどで、調査対象外となる世帯数が一定数ある。

(2) 敬老祝金 (市) 満88歳を迎えられた方に祝金1万円を贈呈
・民生委員児童委員は、在宅の方への贈呈者として協力

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象者数		822人	845人	847人
内訳	在宅	630人	673人	655人
	施設	192人	172人	192人

(3) 高齢者等緊急通報システム (市) 急病などの際、ボタンを押すことで緊急事態発生を知らせる機器を貸与。月1回安否確認コール付き。
・民生委員児童委員は、持病を有するひとり暮らし高齢者に案内

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
年度末時の稼働台数		399台	413台	396台
内数	新規設置	51台	78台	73台

- （４）救急医療情報キット（市）** 救急隊に病状等を伝えるのが困難な場面等で活用できる情報管理セットの配布
 ・民生委員児童委員は、ひとり暮らし高齢者等に紹介・配布

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新規配布数	159人	218人	239人
総配布数	2,858人	3,076人	3,315人
利用者数（※）	2,303人	2,233人	2,195人

（※）亡くなっている方を差し引いた件数

- （５）愛の一声運動（社協）** 乳酸菌飲料の配布を通して安否確認を行う。利用者の費用負担はありません。
 ※他の福祉サービスで見守りができている方や近隣に親族等がいて安否確認ができる方は配布対象外。
 ・民生委員児童委員は、該当となる高齢者に紹介・申請

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
登録者数	278人	277人	275人
乳酸菌飲料配布本数	71,166本	73,445本	69,371本
安否確認件数	186件	144件	160件

- （６）歳末たすけあい募金（社協）** 募金により集めた資金を活用し、「見舞金」、「ねたきり老人理髪券」、「おせち」の形で要支援世帯へ援助している。
 ・民生委員児童委員は、募金活動、対象世帯調査、配布を協力

【民生委員による配布世帯数】

		令和4年度	令和5年度	令和6年度
見舞金	要支援世帯	216世帯	208世帯	203世帯
	ねたきり老人世帯	21世帯	20世帯	18世帯
ねたきり老人理髪券		6世帯	6世帯	4世帯
おせち		163世帯	159世帯	166世帯

（７）警察との協働による個別訪問活動（道警） 平成26年7月に苫民児協と苫小牧警察の間で、高齢者の安全対策にかかる申合せを行い、民生委員の戸別訪問活動に警察が同行する協働事業が始まった。この活動が先行事例となり、道警と道民児連との間で平成27年7月に同内容での協定が締結された。

	令和４年度	令和５年度	令和６年度
参加した民生委員数	コロナ禍により中止	149人	135人
戸別訪問件数		361件	690件
サロン参加者数		361人	108人

今回紹介させていただいた事業のほか、生活福祉資金貸付事業の紹介、個別支援ケース検討会議への参加、児童虐待防止啓発活動の実施、交通安全旗の波活動への参加、審議会委員等々、年間を通して多くの活動と関わっています。

民生委員児童委員の活動により 安否確認や健康的な生活の維持 等につながった事例の紹介

事例 1 〔 民生委員の**日々の見守り活動**による状況把握が安否確認に役立った事例 〕

7 1 歳女性 ひとり暮らしの A さん

- (1) 新聞販売店から、Aさんの新聞がたまっていて心配の連絡が市に入る
- (2) Aさん介護認定なし、地域包括支援センター関わりなし、地区担当の民生委員に連絡すると、日頃からの見守り活動で状況を把握しており、Aさんは、親の介護で市外に出ていることがわかった。

事例 2 〔 民生委員の**高齢者世帯調査**による緊急連絡先の把握が安否確認に役立った事例 〕

7 5 歳女性 ひとり暮らしの B さん

- (1) 新聞販売店から、Bさんの新聞がたまっていて心配の連絡が市に入る
- (2) Bさんの高齢者世帯調査票を確認し、緊急連絡先の姪に電話をすると、姪がすぐにBさん宅に向かうことになり、速やかな安否確認につながった。

事例 3 〔 民生委員の**相談活動**による関係機関へのつながりが健康的な生活の一助となった事例 〕

85 歳女性 ひとり暮らしの C さん

- (1) 民生委員の見守り訪問活動の際、Cさんからデイサービス等の介護サービスの相談を受け、民生委員が地域包括支援センターにつなぐ
- (2) その後、弁当の宅配サービスやデイサービスの利用に繋がり、広がった交流の中で楽しく過ごせている状況を確認している

事例 4 〔 民生委員からの**救急医療情報キット**の利用勧奨が、何かあった時の安心感につながった事例 〕

7 9 歳女性 ひとり暮らしの D さん

- (1) 民生委員の高齢者世帯調査の際、民生委員から救急医療情報キットの利用を勧められる。内容は、持病等で急に胸が苦しくなり、うまく話せなくなっても、救急隊にこのキットを渡すと、Dさんの医療情報を確認してもらえるというもの。
- (2) Dさんは、何かあった際の安心感に繋がると思い記入
- (3) その後も、毎年の高齢者世帯調査の際に、民生委員から、記入した内容に変わっていないことがないか確認されている。

事例 5

〔 民生委員からの紹介で記入した**救急医療情報キット**が、
スムーズな援助に役立てられた事例 〕

認知症の男性 ひとり暮らしのEさん

- (1) 消防（119）に徘徊高齢者の通報があり、救急隊が救助活動にあたった際、持ち物から自宅がわかり、Eさん宅まで連れて行った。
- (2) 自宅ドアに、救急医療情報キット利用のステッカーがあり、同キットにて救急隊が医療情報を確認、医療機関に問い合わせるなどして、救急医療キットの利用がスムーズな援助につながった。

事例 6

〔 **日々の見守り活動**で得られた情報を、**関係機関との連携**
により、見守り体制の構築につなげられた事例 〕

83歳女性 ひとり暮らしのFさん

- (1) 玄関周りにゴミが散乱している様子を見守り活動時に確認し、地域包括支援センターへ連絡した。
- (2) 包括支援センターが地域支援者（対象者が利用する地域の店舗や交番等）を集め、地域の見守り体制構築に向けた会議につながった。

事例 7

〔 **日々の見守り活動**で得られた情報を、**関係機関との連携**
により、地域課題の克服につなげられた事例 〕

きっかけは民生委員児童委員の声から

- (1) 民生委員児童委員が、日々の訪問活動の中で、「冬になると灯油の運搬が大変」と相談を受ける。
- (2) 相談を受けた民生委員児童委員は、何とかできないものかと地域包括支援センターが主催する地域ケア会議の中で課題提起
- (3) 会議に参加していた社協から、協力してくれる事業者とボランティアを調整するとの申し出がある。
- (4) 令和4年11月に苫小牧東高校の協力を得て、住吉公住にてスタート
- (5) 事業は広がりを見せ、東開町、山手町、弥生町、勇払の公住でも実施されている。

（令和4年11月10日 苫小牧民報掲載）



地域の民生委員児童委員が、市明野地域包括支援センター主催の地域ケア会議で高齢者が抱えている困り事として報告。これがきっかけとなり、「だけボラ」事業の活用につながった。

事例 8 〔 民生委員のつながりによる愛の一声運動の利用が、スムーズな援助につながった事例 〕

83歳女性 ひとり暮らしのGさん

- (1) 先日分のヤクルトが受箱に残ったままだったので、ヤクルトレディが社協に連絡（基本は手渡しだが、不在時は受箱に入れる。その際、前日分が受箱に残っていたら安否確認対応）
- (2) 社協がGさん宅と緊急連絡先の長男（病院勤務）に電話するも応答なし
- (3) 社協が担当民生委員に連絡すると、すぐに安否確認可とのことで、社協と民生委員とでGさん宅訪問
- (4) テレビの音は聞こえるが、呼びかけに応答なく110番通報
- (5) 警察が消防に連絡し、救急隊到着
- (6) 救急隊が家に入ると、Gさんは体調不良で居間で横になっていた。
Gさん意識はあり、会話と歩行ができたため、本人に確認し、救急搬送には至らず。すぐに長男と連絡がつき、長男が様子を確認に来るとのこと
で対応を終えた

事例 9 〔 民生委員のつながりによる愛の一声運動の利用が、スムーズな援助につながった事例 〕

84歳女性 ひとり暮らしのHさん

- (1) 先日分のヤクルトが受箱に残ったままだったので、ヤクルトレディが社協に連絡（基本は手渡しだが、不在時は受箱に入れる。その際、前日分が受箱に残っていたら安否確認対応）
- (2) 社協がHさん宅訪問、チャイムに応答なく、鍵も施錠されている。
- (3) 緊急連絡先のHさん弟の妻がHさん宅に到着、開錠し入室
- (4) Hさんベットから落ちて、手すりとの間に挟まり動けなくなっている状態で発見。意識はあり。
- (5) 救助を試みるも、痛みの訴えがあり、救急車要請

事例10 [児童福祉に関する要望活動及び啓発活動の事例]

【要望活動】 児童相談所誘致活動

- ・平成25年7月 北海道に対する市内への児相誘致要望活動（署名活動）開始
署名活動は街頭、各種イベント、関係団体等への依頼等で継続的に展開
- ・平成29年8月 署名が10万筆到達！
- ・平成30年12月 高橋知事（当時）が室蘭児相苫小牧分室設置を表明
- ・令和3年1月 室蘭児相苫小牧分室が開設される
- ・令和5年8月～ 室蘭児相苫小牧分室に一時保護所機能の設置を求める要望活動を開始し、現在も継続している

【啓発活動】 児童虐待防止街頭啓発活動

例年11月の児童虐待防止推進月間に、イオン苫小牧で児童虐待防止啓発標語入りポケットティッシュ配布による街頭啓発活動を実施。令和6年からは配布箇所を市内20か所に拡大して実施している。

事例11 [要保護児童対策地域協議会の会議に参加し、地域の見守り体制構築に協力している事例]

室蘭児童相談所に父親からの身体的虐待により1か月前から一時保護されている小学6年生男児Iくんの、今後の家庭復帰に向けた地域の見守り体制の構築について

- （1）会議では、室蘭児童相談所からI君が一時保護された経過、一時保護所での様子、保護者と児童福祉士の面談時の様子などが話された。
- （2）小学校等、各参加機関からこれまでの家庭との関わり等が共有された。
- （3）会議の結果を受けて、室蘭児童相談所から、早ければ来週中にもI君が家庭復帰すること、その後の家庭との関わりと地域での見守り体制について参加機関で役割分担が決められた。
- （4）主任児童委員は、Iくん宅において心配な様子があれば学校またはこども相談課に連絡をすることになった。